

これからは、エネルギー兼業農家。 農作物も電気もつくって収入倍増！

そうだ、ソーラーシェアリングがあるじゃないか。
農地活用の新定番——農家が作物もエネルギーもつくる時代がやってきた！

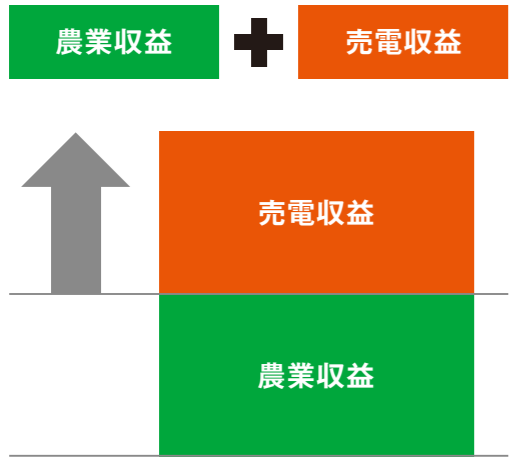
text: Kiminori Hiromachi



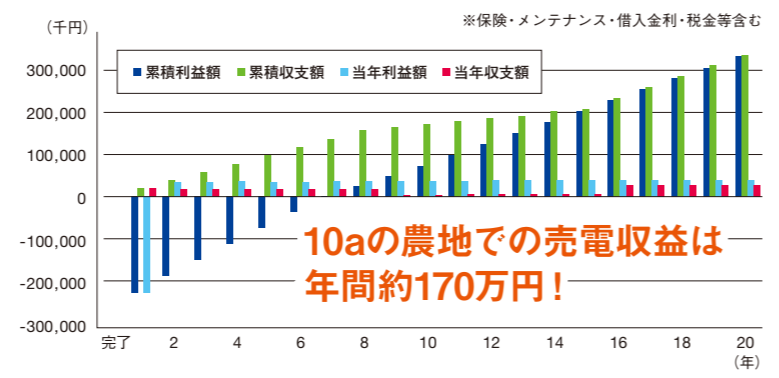
太陽光を「農業」と「発電」でシェアする。それが、ソーラーシェアリングだ。

太陽光パネルを支える架台は、FRP素材がおすすめ。強く、軽く、錆びにくいので、農地には最適だ。

ダブルで
収益アップ



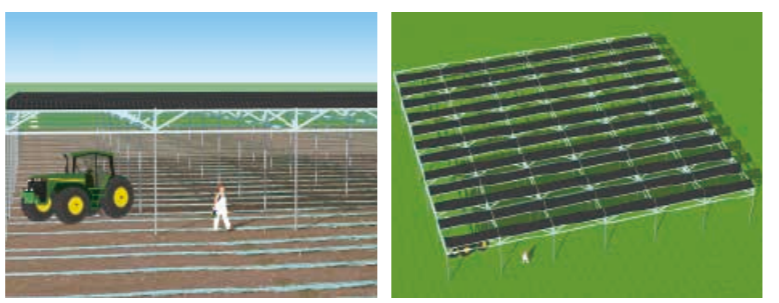
国の制度が20年間の電力買取を保証



発電した電力は、固定価格買取制度 (FIT) により、安定的に売電できる。買取価格はFIT認定年度ごとに定められており、2017年度の場合、1kWhあたり21円。農地に合わせて、様々な規模での設備導入が可能だ。10aの農地に導入した場合、年間発電量は約80,000kWhを期待でき(大阪市の農地に南向きで設置した場合)、売電収益は年間約170万円を見込むことができる。20年間の買取が保証されているので、農家の経営安定・発展に寄与することは間違いない。



静岡県で建設中の大規模ソーラーシェアリングの架台。他社の太陽光発電設備の倒壊事故があった町で、ソーラーシェアリングには後ろ向きな地域だったが、翔栄クリエイトの実績が評価され、建設にこぎつけた。



高強度のFRP架台なら、支柱間隔5m・高さ4mの大空間を確保できるので、トラクタなど農業機械の運転にも支障なし。

第一種農地でも農転できる 農水省が認めた新しい農業

農業は、もともと魅力のあるビジネスになる。農家の収入を大きく増やし、地球のエネルギー問題にも貢献する、そんな新しい農業が注目を集めている。1つの土地で農作業と発電を行う「ソーラーシェアリング」だ。

ソーラーシェアリングとは、農地の上に太陽光パネルを設置して、耕作を続けながら、発電事業にも取り組もうというもの。2013年に農林水産省が、一定の条件のもと(※1)で、これを正式に認める方針を打ち出したことで各地に広まった。

嬉しいことに、ソーラーシェアリングなら、規制の厳しい第一種農地であっても取り組むことが可能。その上、農地転用は太陽光パネルを支える支柱部分だけの一時転用で済み、大部分は農地のままなので、固定資産税が増えることもほとんどない。農業収益を得ながら、新たに売電収益も得ることができる、まさに一石二鳥の仕組みなのである。

しかも、太陽光パネルでつくった電気は、国の制度(固定価格買取制度)により、認定年度ごとに定められる固定価格で、20年間に

ポイント：架台の品質 FRP素材なら安全・安心

ソーラーシェアリングの留意点は、架台の品質にある。架台とは、太陽光パネルを支える骨組みのこと。一時期、太陽光発電設備が台風や大雪で倒壊するというニュースを目にしたが、多くの場合、その原因は架台にあった。とくにソーラーシェアリングの架台には、あまりにも簡易すぎるものが少なくなく、その安全性に疑問が抱かれていたのも事実。

こうした中、いま評価の高まっているのが、翔栄クリエイトのソーラーシェアリング架台だ。その素材は、ソーラーシェアリング用としては他に例を見ないFRPでできている。FRPとは、特殊繊維で強化されたプラスチックで、次の3つの特長をもつ。

- 強度は鉄の10倍！
- アルミよりも軽い！
- 錆びない・腐食しない！

翔栄クリエイトは、もともと大規模太陽光発電設備のEPC(設計・調達・建設)会社であり、全国各地に豊富な実績を誇る。「異常気象の強風にも耐えられるよう、建築基準法の基準風速34mを超える風速55mを基準に設計してきた。FRPソーラーシェアリング

わたって買い取ってもらえる。売電収益の見通しが明確に立てられるので、事業としての安全性も極めて高いというわけだ。

発電事業といっても、太陽光発電システムの設置さえ済ませてしまえば、ほとんど労力は掛からない。営農に支障がないどころか、売電収益を活かして、農業そのものを拡充していくことも可能なのである。

パネルの下でも良く育つ 収量を期待できる作物は多い

太陽光パネルを設置することで、農作物の生育に悪影響はないのだろうか？ この点についても心配は無用。太陽光パネルは適正な間隔をとって設置されるので、パネルとパネルの間から、作物に必要な光は十分に降り注ぐ。植物は、種類ごとに必要とする光の量に上限(光飽和点)があり、そもそも強すぎる太陽光は、成長の役に立ってはいなかったのだ。

植物には、直射日光を好む「陽性植物」と、半日陰から日陰を好む「陰性植物」、中間的な「半陰性植物」がある。日照時間はじめ、その土地の地域特性を考慮しながら、「陰性植物」か「半陰性植物」(※2)を作付けすれば、まず間違いはないだろう。

架台も、その設計思想を継承している」という。「仕入れの規模が大きいので、高品質な製品をリーズナブルに提供できる」というのも同社ならではの。左記Webサイトで収益シミュレーションも受け付けているので、まずは相談してみよう。

持続可能な農業のために 農家の未来をフルサポート

翔栄クリエイトでは、太陽光発電などクリーンエネルギー事業で培ったノウハウを、農業の未来に活かすべく、様々な取り組みを進めている。バイオマスボイラーによる燃料代の削減や、インターネッツを駆使した農業のブランドディングなど、その内容は幅広い。

エネルギーと農業は、持続可能な社会に向けて両輪となるものだ。翔栄クリエイトの取り組みに、期待したい。

SYOUEI
CREATE

株式会社 翔栄クリエイト
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル2F
☎03-6894-2211
celp.syouei-ce.net/solarshare

※2. 陰性植物：ミツバ、セリ、クレソン、シソ、ミョウガ、ラッキョウ、フキ、ニラ、シイタケ等。半陰性植物：イチゴ、ホウレンソウ、コマツナ、カブ、ワサビ、レタス、シュンギク、パセリ、ジャガイモ、サトイモ、ショウガ、アスパラガス、ネギ等。

※1. ソーラーシェアリングが認められる主な条件。①パネル下部の農地における収量が、その地域の平均と比較して2割以上減少しないこと。②発電設備の支柱は簡単な構造で、容易に撤去できること。③農作業に必要な機械を効率的に利用できる空間が確保されていること。